



2年学年だより

発行日：平成 31 年 2 月 28 日 (木)

発行者：横浜市立南高等学校附属中学校

校長：磯部 修一 NO. 10

平成 30 年度の有終の美を求めて

今月は南高校附属中学校 8 期生適性検査、南高校 66 期生高校入試が実施されました。南高校および附属中学校にも新しい春の足音が聞こえてきます。平成 30 年度の附属中学校の生活も残りひと月となりました。今年度の総仕上げをしている各学年の様子をお伝えします。

保護者の皆さま、1 年間さまざまな場面でお力添えいただきありがとうございました。平成 30 年度も残りひと月、よろしく願いいたします。

ここからが本当の学びのスタート

3 年学年主任 蛭田 真生

先日、皆さんの提出した卒業論文を少し読ませていただきました。リニアモーターカーについて学ぶために名古屋の鉄道館や山梨の実験線に出かけたり、児童労働について学ぶために NGO のイベントに参加したり、一人ひとりが自分の決めた研究テーマと向き合い、真剣に研究に取り組んだことが伝わってきて、とても嬉しい気持ちになりました。研究の進め方や論文のまとめ方には、まだまだ拙いところもあります。しかし、自ら問題を見だし、課題を解決する方法を考え、問題解決にチャレンジしたこの経験は、今後の人生の様々な場面で活きるでしょう。

9 年間の義務教育を終えたここからが本当の学びのスタートです。小学校、中学校で育んだ自ら学びに向かう力を高校でさらに伸ばし、学ぶことの楽しさを伝えられる大人になっていってください。

5 期生のみんな、いよいよ中学校卒業ですね。これまで自分を支えてくれたすべての人への感謝の気持ち、そして新たな出会いへの期待を胸に、3 月 22 日、立派に卒業式を迎えよう！

LET'S GROW WITH FAMILY

2 年学年主任 梶ヶ谷 朋恵

今年の学年として最大の行事、イングリッシュキャンプを終えて、2 学年のフロアには、Let's grow with family の文字が入った横断幕が長いあいだ掲げられていました。1 年生の時から、「3 年生になる頃には素敵な家族のような集団になれたらいいね」と集会などの学年主任の話のときに、語っていたことと関係あるかどうかは不明ですが、2 年生のイングリッシュキャンプはこの言葉を合言葉に、大成功に終わることができました。家族という言葉には、個人個人さまざまなイメージがあると思いますが、私が思っている家族のような学年というのは、一朝一夕で出来上がるものではありません。時に優しく、時に厳しく、違いを受け入れ、互いを尊重し、個人個人の関わりの強さに違いがあっても、常に全体への思いを忘れない、あたたかな関係。

そんな学年を 3 年間かけて作ってほしいと願っています。そのためには、お互いをよく知るためにぶつかり合う場面も、近づきすぎたり離れすぎたりしながら、距離感を測る場面も必要です。6 期生の 2 年目を振り返って、皆さんはどんな 1 年だったと思いますか？来年も Let's grow with family!!

優しく、しなやかな心で

1 年学年主任 朝比奈 康江

7 期生が入学して一年、また新しい季節がめぐってきました。さまざまな小学校から集まり、仲間づくりからスタートした中学校生活でした。広い敷地、大きな校舎、恵まれた施設。行事や部活動などでは、中学生だけでなく高校生の先輩の活躍も身近で感じ、それまでとは違ったためまぐるしい日々だったと思います。

その中で、みなさんは、人の意見を素直に受け止め、互いの個性を認め合える優しい集団になりました。

相田みつをさんの詩に「木の芽がのびるのは やわらかいから 若葉がひろがるのは やわらかいから かな風にも竹がそよぐのは 竹がやわらかいから 『やわらかい心』とあります。優しさ、しなやかさは強さです。4 月に入学してくる 8 期生に、行動でそれを示せる先輩になってください。

これからも、やわらかい心でたくさんの方のことを吸収し、成長していってくれることを信じています。

百人一首大会 ～去年よりグレードアップしたかな？～

「来年度のグレードアップを期待しています」という言葉で締めくくられた、1年生の百人一首大会から一年。1月31日（木）7時間目に、今年度の百人一首大会が行われました。クラス対抗戦の取得平均枚数の4クラスの幅が、1年時に比べて縮まりました。また、昨年度は個人戦ベスト30に男子の入賞は4人でした。それに比べて今年度は男子生徒が7人入賞しました。さらに、「去年はいまひとつだったけれど、今年度はガチ勢になりたい」と百人一首に目覚めた人もいます。昨年度よりもグレードアップしていますね！その一方で、「去年よりもあまり練習しなかった…」と大会後に後悔していた人もちらりほらり。さらに、名前順による対戦も一つの運なのでしょうか、去年度の激戦組み合わせが多少入れ替わって再顔合わせ、という対戦も見られました。来年度は名前順ではない予定ですので、お楽しみに！

来年度は、中学校最後の百人一首大会となります。中学校最高学年として、「取りたい札」だけではなくて、「お気に入りの和歌」一首をもって大会に臨めたら素敵ですね。



【クラス対抗戦結果】 ちらし取りを2回行い、各クラス総取得枚数の一人当たりの取得枚数で順位を決定します。

優勝：1組（54.8枚）

準優勝：2組（52.6枚） 第3位：4組（44.2枚） 第4位：3組（38.2枚）

【個人戦ベスト30】 ちらし取りを2回の合計取得枚数で順位を決定します。

順位	氏名	枚数	順位	氏名	枚数
1	■■■■ (1組)	139	16	■■■■ (2組)	83
2	■■■■ (1組)	130	17	■■■■ (2組)	82
3	■■■■ (2組)	104	17	■■■■ (3組)	82
4	■■■■ (2組)	103	19	■■■■ (4組)	80
5	■■■■ (1組)	97	20	■■■■ (1組)	78
5	■■■■ (2組)	96	21	■■■■ (4組)	76
7	■■■■ (1組)	95	22	■■■■ (1組)	75
8	■■■■ (4組)	93	23	■■■■ (3組)	74
9	■■■■ (3組)	92	24	■■■■ (1組)	73
10	■■■■ (1組)	91	24	■■■■ (1組)	73
11	■■■■ (2組)	88	24	■■■■ (3組)	73
11	■■■■ (2組)	88	24	■■■■ (4組)	73
13	■■■■ (1組)	87	28	■■■■ (3組)	71
14	■■■■ (1組)	85	28	■■■■ (1組)	69
14	■■■■ (2組)	85	28	■■■■ (4組)	69

EGG ゼミ第Ⅳ期☆英語スピーチ発表会

2年生のEGGゼミは、一年間を全4期にわけて学習してきました。第Ⅳ期は英語でのプレゼンテーションに挑戦です。初回は附属中学校の英語科の先生方総動員でスタートしました。スピーチのテーマは「行ってみたい所」。国内あり、海外あり、ファンタジーの世界あり様々な場所が、その魅力とともに、2分間を目安に語られました。

英語のプレゼンテーションとはいえ、【課題の設定】→【情報の収集】→【整理・分析】→【まとめ・表現】という学習の手順はこれまでと同じです。初めは「英語で2分間もしゃべり続けるなんて大変そう、と思っていたけれど、いざやってみると意外とできた」と感じている人や、「英語でのプレゼンテーションも、国語でのプレゼンテーションも実は似ている!」と感じている人もいます。1年間のEGGゼミ学習が実り多きものになっていることを願っています。いよいよ来年度のEGGゼミは、卒業研究です!



発表直前の練習風景

1組: 全国の有名な温泉地をコンプリートしたいから「草津温泉」です。映画「テルマエロマエ」のシーンから湯畑や湯もみについて知ることができ、雰囲気を感じてそれをスピーチに生かすことができました。普段英語でやっているペアトークは、とてもレベルが高いのだと思いました。日本語も英語も、しっかりとした言葉で話そうと思うと、時間をかける必要があるのだとわかりました。

2組: 発表の前日に家でたくさん練習したかきがあったとすごく感じた。おかげでほとんどつかからずに言えた。またフリップもうまく使えたと思う。いい感じにまとめられて、聞き手がわかりやすいような説明ができたかなと思う。4期も楽しく終わることができた。

3組: 僕は、他の人と重ならない、かつほとんどの人が知っている、自分の行きたい場所という大変わがままなものにしようとし、「のび太の家」にした。ウェブページのテーマをドラえもんにしようとしたが情報が多すぎて断念したので、今回紹介することにした。特に悩んだのが構成で、最初からバラすことも考えていたが、結局少しずつ聞き手に「ドラえもん」だというヒントを与えるような形にした。

4組: 「東戸塚にあるオリンピックのブックオフ」結構具体的で良いと思った。場所とか店の説明になると、「あなたは〜できる」ばかりになってしまい、canばかりで文が違和感のあるものになってしまった。自分の持っている表現方法や言葉が少ないのだとすごく感じた。他の人は習ったことを生かして上手な文を作っていて、聞いていてすごく感心した。

表彰のお知らせ

おめでとうございます!

○全国人権作文コンテスト横浜市大会

入賞 [] 「サバを想う」

○青少年読書感想文コンクール横浜大会

優良賞 [] 「『強さ』を求めて」

優良賞 [] 「自分で選ぶ」

○横浜市作文コンクール 読書感想文の部

優秀賞 [] 「他人の想いに寄りそって」

○神奈川県福祉作文コンクール

優秀賞 [] 「介護される側の人権」

BOSS子のつぶやき

あんなに寒かった冬が終わりに近づき、あたたかな…そして花粉がづらい(割と最近デビューしました)季節がやってきましたね。

6期生への愛を語るのを一休みして、冬への愛をつぶやいてみます。北海道函館市出身の私は、雪深い地域ではないものの、毎年冬になると近くの公園で長靴にミニスキーを括り付けて、遊んでいました。そんな子供時代。

大人になってからの楽しみは、やっぱり鍋ですかね。珍しく家族が4人揃う夕ご飯は、鍋率が高いです。毎週末の合唱団の練習後に行くお店でも、毎週鍋を頼みます。そして、梶ヶ谷といえば得意のビール?と思いきや、鍋には日本酒が一番です(笑)。以上、「冬への愛」でした。